

市長就任に当たって

任期満了に伴う市長選挙で再選した西原茂樹市長。地震津波対策や産業振興など、これからのまちづくりをどのように進めるのか。西原市長が三期目の市政運営に当たって、抱負を話します。

活力を取り戻す

牧 之原市が誕生して、8年がたちました。私は、10月27日に行われた市長選挙で当選させていただきました。

市民の皆さんと取り組んできた8年間の市政運営を評価していたら、さらに今後4年間のかじ取りを託されました。

現在本市では、地震と津波への万全の備え、浜岡原発の永久停止の実現など、市民生活の安全安心に向けた対策を急ぐとともに、一方では、経済や地域社会における市民や企業の活力を取り戻す施策が求められています。

昨 年度から、市民と行政が一緒になって作り上げてきた津波防災まちづくり計画は、防災施設などの設置場所や適正規模を加えた整備計画として、11月中に決定されます。今年度から計画に基づき施設建設に着手し、市内各地に避難タワーやいのちの山など11箇所の避難施設、13箇所の避難路や2箇所の防災公園、24箇所の防災倉庫などを27年度までに完成させます。

市民が話し合い、学び、納得しながら取り組んだことで、若干整備開始が遅れたように感じられますが、この「地区津波防災まちづくり計画」が、

早稲田大学マニフェスト研究所の「第8回マニフェスト大賞グランプリ」を受賞するなど全国の注目を集めています。活力を取り戻す取り組みですが、起爆剤として2020年東京オリンピックの開催決定を契機に盛り上がったってきた新幹線新駅の設置と、牧之原台地へのにぎわい施設や研究施設などの誘致を目指します。また、富士山静岡空港の利活用にもつながる、世界、日本各地との産業、観光面での交流を促進するため、南アルプスから大井川や牧之原台地、駿河湾までの広域連携を図ります。豊かな自然や



●にしはら・しげき
1954(昭和29)年牧之原市生まれの59歳。椋原高等学校、金沢大学工学部卒業。相良町議会議員、静岡県議会議員を経て、平成17年10月の牧之原市誕生から市長に就任。現在3期目。

活 力を取り戻す取り組みですが、起爆剤として2020年東京オリンピックの開催決定を契機に盛り上がったってきた新幹線新駅の設置と、牧之原台地へのにぎわい施設や研究施設などの誘致を目指します。また、富士山静岡空港の利活用にもつながる、世界、日本各地との産業、観光面での交流を促進するため、南アルプスから大井川や牧之原台地、駿河湾までの広域連携を図ります。豊かな自然や

本 市は、「市民一人一人が主役」です。「牧之原市自治基

本条例」を補完する「牧之原市民参加条例(仮称)」の説明会を実施していますが、これからも、市民の皆さんと一緒に話し合って、「絆づくり」を進めていきます。市民同士、市民と行政が、「学び」「気づき」「共感」「支援し合う」、その先に感謝や幸せ感が広がっていく「幸福実現都市」を目指していきますので、市民の皆さんのご理解と積極的なご参画をお願い申し上げます。

▶10月30日、職員を前に就任のあいさつをする西原市長

魅力に満ちた将来に向けて

市では現在、平成27年度からの「住みたい牧之原市」の姿を描くための計画(総合計画)を皆さんと一緒に策定しています。これまでの状況と今後の進め方についてお知らせします。

市民の皆さんが考える「住みたいまち」の姿とは

新しい総合計画の策定に当たり、7月から9月にかけて健康福祉、教育文化、産業などの分野別に合計17回話し合いを開催し、市内の企業や子育て世代など173団体、合計513人の市民の皆さんから意見をいただきました。

- ▼参加者は、「住みたいまちの姿について意見を出す」、「出された意見の中から重要なものを選ぶ」、「解決に向けてできること」などについて議論。特に多かった意見は次のとおりです。
- ▼子育てや子どもたちが育つ環境の充実
- ▼医師確保や診療科の増設による地域医療の充実
- ▼安全安心な防災対策
- ▼働きやすい、働きたいと思える雇用の場づくり
- ▼鉄道やバスなど公共交通の充実

活力あるまちをつくるための議論

12月から平成26年3月にかけて、総合計画の素案としてまとめるために、市民、有識者、職員からなる「市民討議会」を開催します。

市民討議会開催概要

回数	実施時期	内容
第1回	12月上旬	市民討議資料の説明
第2回	1月中旬	重点戦略の協議
第3回	2月中旬	施策の方向性の協議
第4回	3月上旬	将来像、全体のまとめ

*内容は変更の可能性があります。

皆さんが出した意見や市民意識調査結果、専門家の意見などをまとめた、市民討議資料を基に、「市の可能性」を生かして、活力ある牧之原市をつくるために、今後のまちづくりの方向性と取り組みの優先順位を議論します。魅力あるまちを目指し、市全体でつくり、推進する計画としていきます。

牧之原市の可能性

*代表的なものを掲載。

協働の取り組み

再生可能エネルギー

工場、研究所の集積

地域の活力(産業)

新幹線新駅の構想など交通インフラの整備

豊かな景観

子ども

高齢者施設の充実